

実践記録

180

シリーズ

「元気の出るふるさと講座（上越市谷浜桑取地区・大島区）」

上越市立公民館 小池 和美

今回は、2月号に引き続き、上越市立公民館の「元気の出るふるさと講座」を紹介します。

◎学習内容

この講座は3年間継続する講座として、今年度は「地域を知る」ことを重点的に企画しました。中山間地域4地区において、各5回講座で実施しました。この号では、谷浜桑取地区と大島区の内容を紹介します。

①「健康」をテーマに学ぶ（谷浜桑取地区）

谷浜桑取地区では、元気の出る地域を作るには、そこに住む住民が健康であることが大切なことから、健康に結びつくテーマについて学習しました。受講生は、谷浜桑取地区内の女性15人が集まりました。

始めに、上越市の中山間地の現状や、上越市が行った中山間地域における集落の実態調査結果について学び、保健師を講師に、検診結果からみた地域の健康状態について知りました。

また、米粉やそば粉、旬の素材を使った料理、健康体操を行いました。

写真は、10月に実施した公開講座の様子です。「ふるさとの自然、体験をとおした健康づくり」をテーマに、他地域からの参加も募り、くわどり市民の森でキノコの学習を行いました。当日は受講生8人に一般参加者16人が加わり、紅葉の始まったブナ林を賑やかに散策し、ふるさとの自然の豊かさについて、改めて認識するとともに、参加者同士の交流を深めました。



「森で採取したキノコについて学習」

受講後のアンケートでは、来年度へ向けて「他地区へ訪問をしたい」「地域の歴史を学びたい」という積極的な意見が多くありました。

②他地区住民との交流を深める（大島区）

大島区では、受講生を区内だけでなく、広く市民

に呼びかけ募集し、19人の受講生が集まりました。（そのうち大島区在住は3人）

初回は、大島区の現状について、上越市集落づくり推進員や、地元藤尾生産組合の代表から講話をいただいたり、素人芝居「大浦安」の公演を見て、雪国の暮らしについて理解を深めました。



「古文書から見た大島区の歴史を学ぶ」

2回目以降は、そば打ち体験の他、大島区の歴史、大島区の音楽による地域づくり、雪のくらしなどについて学びました。

この講座では、市内のさまざまな地域から集まった受講生同士の交流、仲間づくりを促しました。受講生は60代から70代が多く、自己紹介から、現在市街地に住んでいても、もともとは中山間地域に生まれ育った人が多いことが分かりました。

講座をとおして、過疎化、高齢化などの課題に直面しながらも、地元の方々が自然とともに豊かに暮らしている様子にも触れました。1月下旬の大雪の日、地元ギターサークルの心のこもった演奏を聴き、雪国の人の心の温かさ、心の絆を感じることができました。

◎次年度へ向けて

来年度は、今年度実施した4地区にさらに4地区（清里、浦川原、吉川、金谷）を加え、8地区で実施する予定です。

これからも、公民館は、地域の魅力を発見し、地域を見直す講座を実施することで、「ふるさとのために、自分に何ができるだろう」と考えることができる人を、育てていく場でありたいと思います。

こうした講座を各地区で盛んに行っていくことがきっかけとなり、人と人、地域と地域の交流が促進されます。そこから、元気の出るふるさとづくりのために、新しい力が生まれてくることを願って、今後も、公民館としての人づくり、地域づくりをすすめていきたいと思っています。